

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年12月15日	評価確定日	平成31年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ『グループホーム よこせ』は、海と山の自然豊かな環境の中にあり、この横瀬地区の住民の方々には、いつもお気遣い頂き人情に厚く温かく見守って頂いていることを感じ、利用者様を中心とした家庭的な雰囲気と基本理念に基づき、共に助け合い、まごころ込めたケアを大切にさせて頂いております。また、地域の方々との交流や地域行事、イベントには積極的に参加させて頂き、生き生きとした生活の支援と自立した生活が少しでも多くできる事を目指して日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”は周囲に田畑やみかん畑が広がっている。地域に溶け込み、地域の一員としての生活をされており、地域の方々との協力関係を築いてこられ、地域行事に積極的に参加してこられた。保育園児との交流も継続し、芋掘り等の交流と共に、ホーム内で踊りを披露して頂くなど、交流の機会が増えている。30年度はスタッフみんなが理念について考える時間が増え、ご利用者個々のケアに向き合う姿勢も変化してきている。日々の生活では、ご利用者の方々がレクやリハビリ(歩行訓練等)、家事活動、畑仕事などもされており、リビングでカラオケを楽しむ機会も増えている。日々の役割や畑仕事をされている写真を主治医に見て頂き、お元気に生活されているご様子を理解して下さっている。スタッフのチームワークも良く、今後もご利用者の人生観をもっと知ること、ケアの質やケアの幅を広げ、家族との協力関係も深めていく予定であり、理念にある「出会えたことの喜びと、これからの一生を大切に」日々のケアに活かしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤し、各々がホームの基本理念、職員の心得を唱和してから業務に入ります。また、スタッフ会議で随時目標を立て、振り返りのアンケートを行い、理念の共有を図っています。	馴染みのスタッフが多く、スタッフ同士の結束も強い。毎月の目標の中に理念や心得の文言を盛り込み、スタッフは日々の実践に繋げている。今後もご利用者の人生観をもっと理解していくと共に、家族の方々との協力関係も深めていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で近所の方との挨拶や世間話等し、良好な関係になっていると思います。また、近所にスタッフの知人である方が、家を建てるとご挨拶に見えられ相互にお世話になることの確認ができました。	30年は西海市立北小学校との交流を楽しむことができた。地域の総会や薬師様奉納相撲、横瀬地区元旦マラソンの応援、横瀬地区敬老会等に参加したり、保育園児との交流(芋掘り・踊りの披露等)の機会も増えている。大島の独居の方をご招待し、ホームの生活体験をして頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会総会や行事参加活動を通じ施設が地域における福祉的貢献ができていますと実感しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種の方々の貴重なご意見が幅広い視野の中で頂いたりすることでサービス向上に活かしています。	30年5月から「身体拘束廃止委員会」も一緒に開催し、参加者の方々で情報交換を続けている。外部評価結果を踏まえ、災害対策のアドバイスを頂いたり、保育園の園長も会議に参加して頂き、園児との交流の機会を増やしてこられた。	市の地域ケア会議などに参加しており、今後は地域の現状(地域の強さ)や課題(運転免許証を返納後の課題等)を運営推進会議で集約し、地域の中で必要なこと(物)や小さな解決策を地道に検討していきたいと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ市役所担当課長、市社協会長、近所の方々との協議により絆を強めているところでもあります。	運営推進会議に市の課長が参加して下さい、ホームの取り組みを理解して頂いている。管理者が市を訪問し、処遇改善加算申請や身体拘束廃止委員会の立ち上げについてアドバイスを頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	猫をホーム内で飼っている特殊な事情で玄関の施錠をしている他、拘束はしないことをケアの基本としています。	「身体拘束は絶対にしない」という方針であり、スタッフの優しい寄り添い等もあり、穏やかに過ごされている方が多い。30年は委員会の立ち上げも行われ、スタッフ間で勉強を続けている。感情が不安定な時は原因(生活歴も含めて)を分析し、安心して過ごせるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にスタッフ会議などで話しており、ケアのあり方をバランスよくサービスを実施することでストレスのない業務、ストレスを溜めない様努力しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、対象者がいないためされていませんが、毎年、権利擁護に関する研修は、参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時における説明は充分に行う努力はしていますが、スタッフ会議等で意見があり、今後更に改善することを共有しました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなかご家族様の出席が得られず会の開催までは、いたっておりませんが、面会時や運営推進会議で意見を聴いたり来所時に限らず、お電話口での情報の共有を図り、意見、要望を大切に反映できるように努めております。	面会時に家族との担当者会議が行われている。暮らしぶりの報告を行い、日々の生活や行事等の要望を伺っている。病院受診の同行時に家族と情報交換する方もおられ、体調変化等の不安を傾聴し、安心してホームで暮らせるように対応策の検討が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各スタッフが意見を出し合い、十分に共通理解がなされています。	運営者も明るいお人柄で、スタッフは意見を伝えやすく、スタッフのストレス等に気を配って下さる。管理者も常にホームとスタッフに気を配り、運営者との情報交換に努めている。毎月の目標の振り返りも行われ、「もっと利用者と一緒に」「もっと楽しく」など、スタッフの想いや要望が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれのスタッフの価値観を大切にしつつパーソン・センタード・ケアを根幹として就業しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議や内部研修などを行い、自ら学ぶ姿勢を求めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、施設連絡協議会の一員として管理者が主たるメンバとして参加しております。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、特に気を付けて声かけ傾聴を行い不安を取り除くよう心掛けており、本人とご家族様との話し合いを随時行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は充分にお話を聴き、要望等を承っております。また、悩み等あれば、事務所等でじっくりお話をお聞きしたりしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に基づくサービスの実施は特に問題なく行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に行っています。ホームの理念にありますように『共に助け合い』の通り、暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人の思いを共有するために連絡・連携を密に行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人への面会など帰宅願望が強く出てしまい迷惑ではないかと相談がありますが、何度でも来て頂くことをお勧めし、ドライブや買い物等支援に努めています。	地域行事や馴染みの商店、病院の待合室等で馴染みの方と会話を楽しまれたり、家族とお墓参りや外出(外食)に行かれる方もおられる。スタッフも一緒に自宅訪問し、仏壇の掃除をされている。30年は太田尾地区の「給食の会」の方との交流を企画し、地元の話で盛り上がった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が互いに助け合いながら、仲良く過ごされるよう、またトラブル等無いよう常に声かけし、仲良く暮らせるよう支援しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される祭、利用者様が安心して退所し生活をされている様子を見守り確認を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に重要となり、ホームでの生活が客観的に困難な状況ではご家族様の意向を組みながら今後の事を検討しております。	入居前に自宅や病院訪問等を行い、ご本人と家族の想いを理解するように努めており、ホームの行事に参加して頂いたり、職員と顔馴染みになって頂いた。入居後もじっくり時間をかけて、その時々 の思いや要望に寄り添い、少しでも安心した生活ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフにパーソン・センタード・ケアについて説明し、アセスメントの収集を行ったりご本人の生活歴を傾聴しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内での昼夜の過ごし方、帰宅時の過ごし方を比較できるようにご家族様に伺ったり、日誌などで引き継ぎを行い把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフによるアセスメントを共有しケアマネがケアプランを立て、ご本人とご家族様の思いをもとに作成、記録しています。	ご本人と家族の要望を伺い、担当職員が「できる事」「できそうな事」等を記録している。計画作成担当者が介護計画を作成しており、日々の役割(外庭で手仕事、洗濯物たため等)、レク、体操等と共に、「モップがけができるように」「地域行事に参加する」等も盛り込まれている。	29年1月から担当職員を中心に生活歴、ADL、IADL等の情報収集をされている。今後も多職種連携の機会を増やし、リハビリ職の視点で更なるアセスメントをして頂き、短期目標に繋げていければと考えている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌にケアプランの内容を載せて、実践、気づき等記録し共有しています。また、連絡ノート、その都度の引き継ぎで当日スタッフが内容を共有し、統一ケアに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設機能、地域機能、在宅機能を資源として捉え活用方法に考慮して行おうとしております。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を続け、地域住民の一員として、安全で豊かに暮らせるように、この地域資源の活用方法に考慮して行けるよう努めて参ります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の方の希望やかかりつけの医療機関に受診しており、基本ご家族様に受診はお願いしている所ですが、スタッフも同行し、日頃の状態や気づきを伝えています。また、主治医の指示を会議で全員に伝えております。	日々の体調確認を行い、気になる事がある時は家族に連絡し、早期受診している。受診時は主に職員が同行し、日々の体調などを医師に報告しており、体調に応じて減薬に繋げる事もできている。体調変化時は家族に同席頂き、医師からの説明を聞いて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関の看護師と利用者様との良好な関係を保ち気を使いながら異常時に相談しやすくできるように心掛けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカーとの情報の共有として日常生活上のケアポイントを伝えたり、医療的ケアが困難な場合は一旦施設に戻ってもらいケアを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は、事例としてありませんでしたが、以前は、看取りまではいかないものの主治医の指示を受け、ご家族様と共に夜間泊まって頂き、生命の危機の状態になる寸前までのケアを行わせて頂くことができました。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多い。職員も体調維持に努めているが、現状、往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜医師に相談しており、入院ぎりぎりまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル・スタッフ連絡体制を基に緊急時に対応できるように備えております。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域自主防災組織との連携と施設内での災害に対する学習と訓練を重ねていきたいと考えております。また、今回風対策として窓ガラスに飛散フィルムを施行しました。	防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしている。毎年11月9日(防災の日)に、消防団や地域の方と夜間想定及び夜間(19時)の訓練をしている。地域の方も見守り支援をして下さり、訓練結果を踏まえて様々な意見を頂いている。お米は年中あり、飲料水、飲料水以外の水、食料(缶詰、即席味噌汁、カップ麺等)、停電時の補助電源(2時間)等を準備している。	自動通報になったことで、マニュアルの改訂を行うと共に、変更内容に応じた訓練を行う予定である。防災計画も作成しており、今後は更に地域に応じた災害に対応できるマニュアルにしていくと共に、ご利用者個々の持ち出しリストなどを追記していく予定である。
----	------	---	--	---	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の方一人ひとりの人格・人権を尊重しその方にあつた対応をするように努めております。反省も行っております。	ご利用者の尊厳を大切に、ご本人の立場に立ったケアが行われている。今月の目標を決め、職員個々に気を付けている。日々の業務の中で、ケアの仕方や言葉遣い等を振り返り、翌日の業務に活かすように努めており、羞恥心の配慮も続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自由に訴え発言など出来るように心掛け、傾聴を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にと思っておりますが、スタッフの都合になっていることもあり、その都度反省し、適正に支援できるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの帽子やスカーフ・手袋にヘアピンと自由に選んで頂きおしゃれされています。たまにお化粧をされ、素敵な笑顔を見せて頂きました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に切り込みをして作り、片づけまでして頂いております。また、利用者様の好みを訪ね要望に応じて食事が楽しみになられるように努めております。	管理栄養士が作成した献立を基に、日々美味しい食事が作られている。体重の変動もなく、足の浮腫も見られず、健康に過ごされている方が多い。チラシを見ながら、ご利用者と買い物に行かれたり、“ごぼうそぎ”やツウの皮むき等をして下さり、畑で収穫したお芋料理も好評である。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養バランスは、取れていると思われる、水分もなるべく摂って頂けるように努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア研修や利用者様個々の様子に応じてケアを行っております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方が多く、失敗されたときは、その思いを共有し、意思表示ができない方には仕草や様子を見逃さないように努めております。	排泄感覚や、ご利用者個々のしぐさ(立ち上がる・呼ばれる等)を察知し、個別のトイレ誘導をしている。下着を着用する方も多く、排泄が自立している方もおられ、パッドの使用等の検討を続けている。陰部清拭は毎日行い、希望や体調に応じてポータブルを使用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で実態を把握し服薬や水分補給、キウイ、ヨーグルトなどでも対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室が一对一でゆっくり話せる場所です。入浴嫌いな人もいなくなり、楽しみの時間となっています。	お風呂好きな方が多く、湯舟では職員との会話を楽しまれている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯などを楽しまれ、自立支援を大切にできる範囲はご自分で洗って頂いている。陰部清拭等は毎日行い、清潔保持に努めている。今後も手すり等の検討を行う予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、お昼寝されますが、夜も良眠されています。安心して頂ける声かけを心掛けて行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的を理解し、症状の変化の確認、薬の変更時など、特に気を付けて、変化があった場合受診日に限らず、主治医に報告を行っております。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合ったお手伝いや共同生活での役割分担をスタッフで考え、カラオケなど一人ひとりが楽しく過ごせるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム全体ではお花見や奉納相撲の観覧に出かけました。また気分、要望に応じて買い物や散歩に出かけました。ご家族様にも協力して頂き墓参りや買い物などの外出・外泊など楽しんでいます。	地域のお祭りにお連れしている。季節の花見や地元の大島大橋公園などのドライブを楽しまれたり、家族と自宅に行き、お仏壇の手入れをされている。馴染みの商店の特売日には、ご利用者も一緒に砂糖や味噌の買物に行かれている。	以前に比べ、日々の散歩等が減っている。ホーム内で過ごす機会が多く、カラオケを楽しむ機会が増え、ホーム内の歩行訓練等は継続されているが、今後も気候や体調などに配慮しながら、ホームの外に出る機会(散歩)を増やしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフに要望があれば一緒に買い物に出かけ購入したり、ご自分の財布より購入される方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望によりご家族様の方とお電話でお話をされており、難聴の方には、葉書きが届いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が好まれる場所でゆっくりと過ごされています。利用者様の多くは玄関前のソファが好まれております。	玄関のソファがお気に入りの方が多く、来訪者を笑顔で出迎えて下さる。リビングではご利用者同士の関係性もあり、テーブルの配置を工夫しており、職員も一緒に座り、ゆっくり会話をされている。日々の生活(調理や野菜の収穫、モップ拭き等)やリハビリ等の写真を廊下に貼り、来訪者に見て頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋でゆっくりされたり淋しくなられるとリビングでお話をされたり過ごされています。		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅がよく使われていた物や馴染みの物を持って来て頂き、落ち着ける空間作りに工夫をしています。</p>	<p>馴染みのタンスやテレビ、ソファなどを持ち込まれ、家族の絵葉書や家族の写真、遺影などを飾られている。就寝前に、ご利用者同士で1つの居室に集まり、一緒にベッドに座って会話を楽しまれる方もおられる。ホーム内で猫も一緒に生活しており、日々の掃除や換気等も努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所、お風呂の場所、自分の居室が分かるように工夫をしています。</p>		